

連載第16回

## 京大植物園観察会

## 第50回 京大植物園観察会レポート

2007年5月17日(木)12:05~13:40 晴れ  
テーマ『京大植物園花の地図を作ろう』

ガイド

西田 佐知子(名古屋大学 博物館)

坂本 三和(京都大学 フィールド科学教育研究センター)

## ■ 第53回観察会のお知らせ

日時:8月23日(木)12:05~12:55(許可申請中)

場所:京都大学理学部附属植物園

『森で語ろう Part III』

植物園前に集合してください。

今回の観察会では、参加者と主催者側が協力して園内の花や樹木の地図をつくるという取り組みを初めて行いました。

当日は参加者とスタッフを四班に分け、同時に植物園の白地図を四つの区域に分割し、各班が一つずつ担当しました。「この白地図にはまだ何も記入されていません。植物園を歩くのが楽しくなるような地図を作ってみましょう」というガイドの声かけのもと、地図作りに取りかかりました。各班とも担当区域の中で目印になる樹木や、現在花をつけている木や草の位置を、花の色に近いシールや色鉛筆などを使って記入していきました。

40分ほどで記入を終えて集合し、各班が記入した地図を一枚の大きなボードに貼り合わせて植物園全体の「花と樹の地図(2007年春バージョン)」が完成しました。最後に、各班の担当エリアの特徴や「みどころ」を紹介し合ってお開きとなりました。(坂本三和)

第50回という記念すべき観察会は、いつもとは違う形になりました。いつもなら、講師の先生が朗々と話す解説に参加者の皆さんが耳を傾け、講師が歩く後を参加者がぞろぞろとついていくという構図です。しかし、今回のテーマは、「花の地図を作ろう」。誰が作るのかというと、参加者の皆さんです。ということで今回の観察会は、講師は楽しく解説せず、参加者の皆さんが園内いっぱい広がっていき、一生懸命花を探す、という風景が展開されました。

京大の植物園は、言わずもがなですが、植物の宝庫です。でも、その宝庫の植物がいつごろどこで花をつけたり実をつけるか、記録はないのではないのでしょうか。これらを記録すると同時に、参加者の皆さんに「私が見つけた花」という身近な気持ちで植物園と接してもらおうきっかけになれば、と(そして、講義するネタに困った講師の下心とともに)、今回の観察会が開かれたのでした。

会の前日は激しい雨と風。この分で行くと、観察会も嵐か…と危ぶまれましたが、会当日はかろうじて雨もやみ、時には日差しも差す、さわやかな天気となりました。植物園ではエゴノキの仲間が花盛り。春の花の盛りは過ぎてしまっていたようですが、初夏の花を探す旅となりました。

参加者の皆さんは、説明を受け、4つの班に分かれて、花探しへと旅立ちます。花の多さは、各班が担当する区域でずいぶん違いました。旅立った途端すぐ足元に咲く小さな花を発見、探す苦勞もなく次々花が見つ



▲みんなで花の地図づくり

る班もあれば、大木ばかりで、しかも咲いておらず、早々に花探しはあきらめて代わりに地図の目印になる木を探す班もありました。

約半時間の花探しのあと、植物園の大きな白地図の前に集合しました。各班が、自分たちの見つけた花の色のシールを、見つけた場所に貼っていきます。出来上がってみると、予想していたよりずっと数多くのシールが白地図を埋めました。参加者の皆さんも、いつもの聞くだけの観察会と違った達成感があったようです。あの植物の名前が思い出せなかった！と悔しさに上気する人、ここは花が少なかったが木陰が暗すぎるのでは？と考え込む人、この花の香りはどこから？と探し回る人…。参加者一人ひとりの個性が出た、楽しい会になったと思います。

「花の地図を作ろう」の続きは9月終わりごろに開催する予定です。今回見た花の実が見られるかもしれないので、「花と実の地図を作ろう」という題にしてもいいかもしれませんね。(西田佐知子)

京大植物園を考える会 <http://members.at.infoseek.co.jp/bgarden/>

「ひとつまえにもどる」

Copyright (C) SCOOP. NET Kyoto-Univ CO-OP. All Rights Reserved..